

# 景況レポート

(7月分・情報連絡員80名)

## 非製造業で特需

～エアコン販売と災害復旧工事の発注～

### 【概況(全体)】

7月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向き20.0% (前回調査13.8%)、「悪化」が28.8% (同28.8%)で、業界全体のDI値は-8.8となり、前月調査と比較し6.2ポイント上回った。

全国及び東北・北海道ブロックとの比較では、非製造業で全国及び東北・北海道ブロック平均を大きく上回ったことで、本県の全体景況DI値の好転に波及する結果となった。

### 【業界別の状況】

鉄鋼・金属や小売業、サービス業及び建設業の一部で好転割合を維持しているが、食料品や繊維工業、商店街及び運輸業では回復傾向が見られない状況にある。非製造業で特需はあるものの各業界とも依然として需要の減退や個人消費の低迷等により景気回復を実感できない状況にある。また、燃料価格の上昇によるコストの増加や人材不足が深刻となっている業界も多く、今後の業況については引き続き慎重に見極めていく必要がある。

### <全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較>

	秋田県	全 国	東北・北海道
全 体	-8.8	-18.7	-20.3
製 造 業	-25.0	-17.1	-23.8
非製造業	2.1	-20.0	-18.3

### <景況天気図>

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業							
非製造業							

#### 【凡例】

快晴 30以上  
 晴れ 10以上 30未満  
 くもり △10以上 △30未満  
 雨 △10未満 △10未満  
 雷雨 △30以下

#### 【天気図の見方】

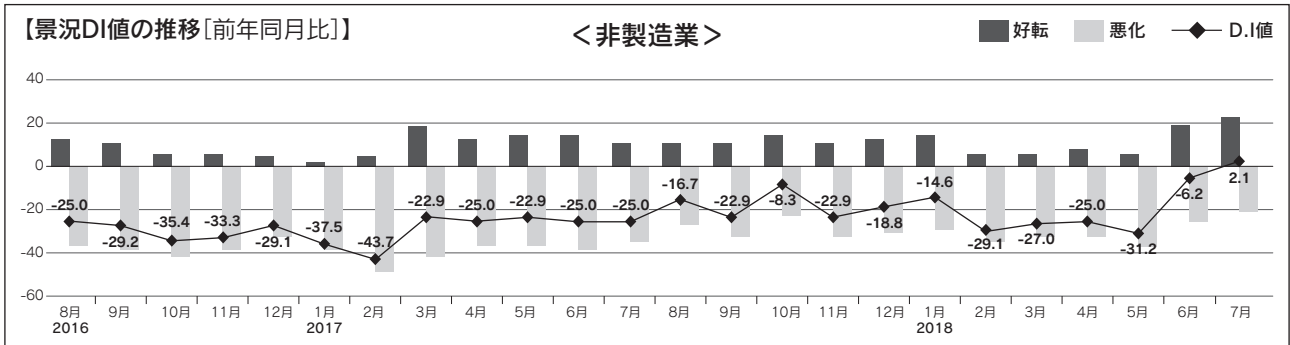
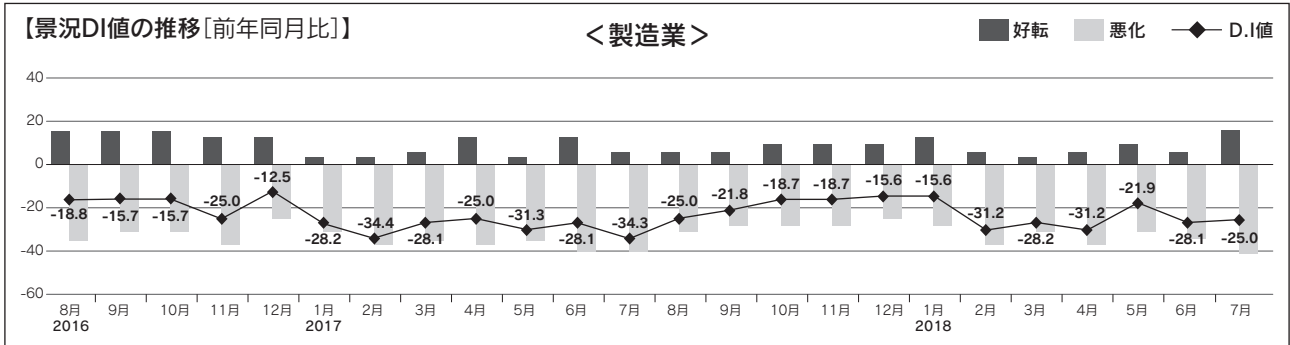
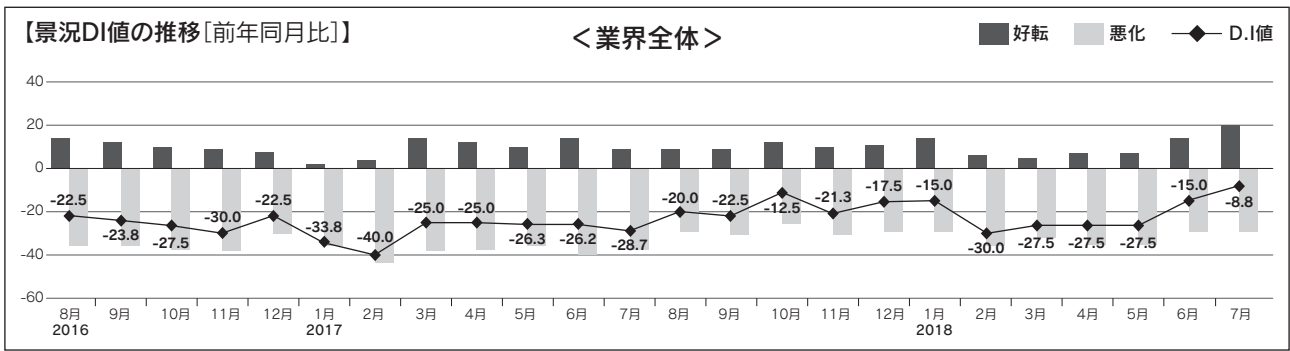
前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

### 【業界の声】 ～製造業～

(回答数：32名 回答率：100%)

食料品 (パン)	6月後半に続き高温で売上が減少している。気温が30℃以上になると売れ行きが特に厳しい状況となる。
食料品 (製麺)	7月半ばより気温が上がり、業務関連では冷やし物の動きが多少好調であったが、小売店等の動きは鈍く量的には前年を下回った。
繊維工業 (ニット)	秋物生産の最盛期であり、各社ともフル稼働している。ただし、小ロットで凝った企画ものが増えており、人手不足の中でこなしていくのが非常に難しくなっている。
繊維工業 (繊維)	受注要請は有るものの従業員の減少により生産能力が低下し、要望に応えられない状況が続いている。生産コストが上昇の一途であり、加工賃は据え置かれたままとなっているため経営的には非常に厳しい状況にある。(県南地区)
木材・木製品 (一般製材)	原木の入荷量が前年に比較して、極端に減少している。原木の出材量の不足感から公売の入札価格も高めで推移し収益面を悪化させている。また、原木不足から生産量も減少し、製品、半製品の在庫も減少している。
木材・木製品 (プレカット)	7月はショートステイ施設の物件が8月納入となったが他物件が出荷前倒しとなり、受注見込みどおり前年比80%増の建坪で1,200坪の出荷を維持した。
木材・木製品 (家具)	県内、首都圏からの需要があり、前年同月との比較では多忙であった。その背景は消費税率引き上げ前の備品購入やオリンピック・パラリンピック関連の需要と推測される。
窯業・土石製品 (生コンクリート)	7月の出荷数量は前年比115%台であり、4～7月累計で前年比125%と想定している。全体では前年同月及び前年累計を上回っているが、日治道工事の進捗により大館北秋地区の出荷数量の落ち込みが激しい。また能代山本地区も能代火力発電所工事の終了から減少した。他地区は前年の反動から出荷数量は増加傾向にある。
鉄鋼・金属 (鉄鋼)	7月に入り、官民とも物件がかなり出ており、各社とも100%以上の稼働で推移している状況にある。年内の受注は各社ともほぼ確保しており、しばらくはこの状態で推移していくものと思われる。
一般機器 (金属加工)	受注面では各組合員間でバラつきが見えてきた。受注増を見込んでの設備投資をする組合員もいるが、受注が減少気味で先行きに不安を持つ組合員もおり二極化が見られる。取引条件は納期、価格面とも相変わらず厳しいものが多い。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：48名 回答率：100%)

卸売業 (青果) 前年同月比108.6%で推移した。豪雨や猛暑の影響により全国的に野菜、果物に被害が生じており出荷量が少なく価格高騰となっている。

小売業 (自動車) 7月の新車販売台数は、登録自動車が2,449台(前年同月比106.1%)、軽自動車が2,008台(同107.3%)で、合計4,457台(同106.7%)であった。車種別では小型、普通貨物が3割程度前年同月を上回っている。

小売業 (電機) 冷蔵庫の販売が前年より増加していたところに加え、下旬の熱波の影響からエアコンの販売が急増したことで前年同月比105%と好調であった。

商店街 家電販売は前年同月比増、酒類は前年並み、食料品販売は前年同月を下回った。(秋田市)  
家電販売店では猛暑により、エアコンや冷蔵庫の売上が好調である。(横手市)

サービス業 (タクシー) 猛暑が続いたため近距離利用者が多く、運行回数は前年同月比で100%を超えたものの実車1回当たりの走行距離が短く増収には至らなかった。

建設業 (一般土木工事) 豪雨災害関連工事の発注により受注は増加しているが、業界の人手不足が顕著となっている。

建設業 (電気工事) 一般住宅の動きはリフォームを含めても低調である。連日の猛暑の影響でエアコンの需要が伸びているため、取付工事は多忙を極めている。(中央地区)

運輸業 (トラック) 荷物の動きは悪かった。中旬からスイカなど大型荷物として出たことで少し回復したが4t車の荷動きがあまり良くなかった。(中央地区)

その他 (砂利) 生コン用骨材は若干増加したものの路盤材関連の骨材は相変わらずリサイクル材指定でありバージン材の動きが鈍い状況にある。(県南地区)